

自転車利用環境向上会議 in 名古屋

遊びながら未来をつくる インクルーシブな **自転車安全教育**

新時代が始まる

2025年11月1日（土）

岡谷鋼機名古屋公会堂 分科会

警察庁

自転車安全教育ガイドライン作成 構成員

一般社団法人 市民自転車学校プロジェクト
代表理事 藤本典昭

自転車安全教育の目的とは

「ルールやマナーを覚えて記憶する」
ことだと考えていませんか？

自転車 安全行動

幅広い 年齢層 求められる

法律

- 道路交通法

条例

- 自治体の条例

国家公安
委員会

- 交通安全教育指針

- 交通の方法に関する教則

ルール

危険予測・事故対応

行動

コミュニケーション
(意思疎通)

行動

- 社会性

マナー

メンテナンス
(整備)

行動

全ての自転車利用者 に求められる



「自転車安全教育の目的」

意識せず **安全行動** が
取れる能力を身につける

幅広い 年齢層

理解力 身体能力 違う

ライフステージ

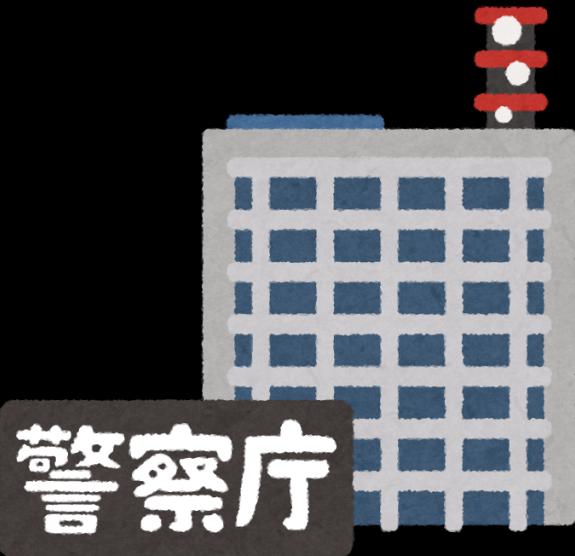


自転車安全教育

来年4月から

教育 ガイドライン

(官民連携協議会)

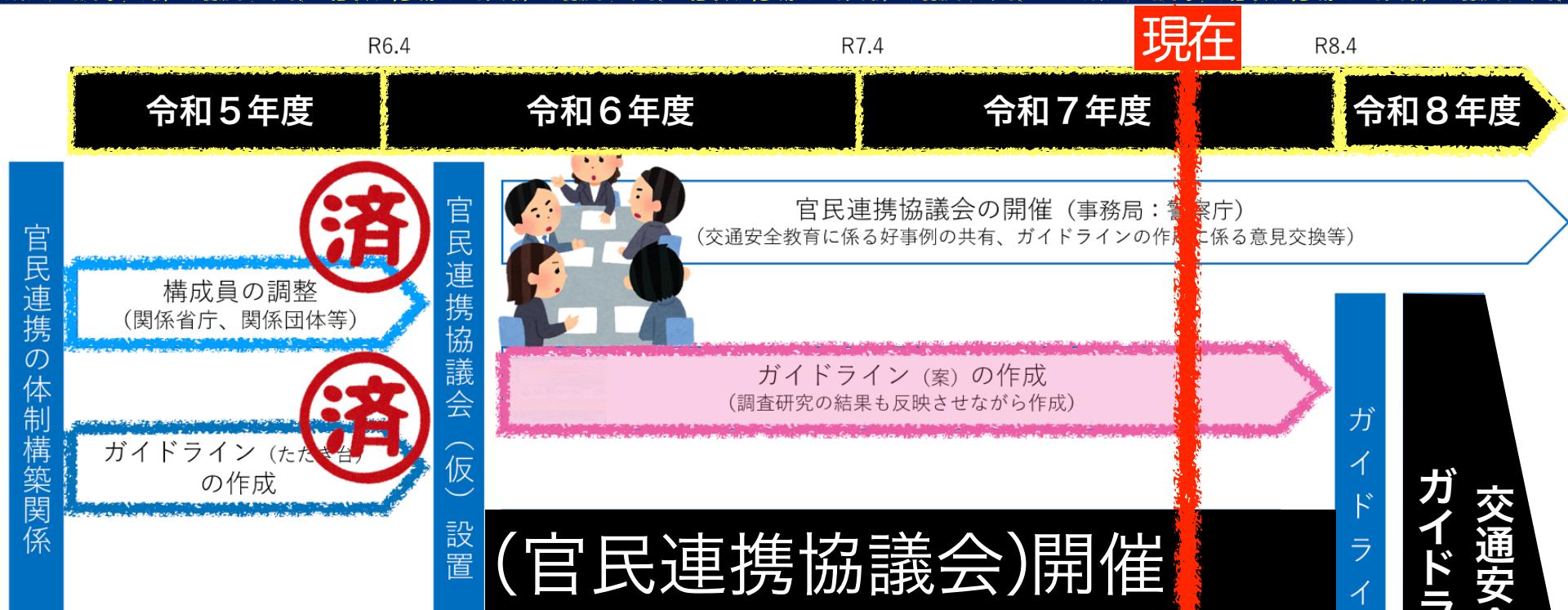


警察庁

ライフステージ別でスタート



交通反則通告制度 4月1日スタートに向けた取り組み



自転車安全教育 教育ガイドライン 検討・実施スケジュール

ライフステージ別 教育ガイドライン

「目標」「教育内容」設定

- ① 知識
- ② 技能
- ③ 行動・態度



大切なのは **目標** に向けて
どの様に教えるのか
(アプローチ)





ライフステージ別 大切なのは「アプローチ」

	アプローチ	例
 未就学児 小学生（下）	遊びながら学ぶ	自転車ゲーム
 小学生（上） 中学生 高校生	他人事から自分事	事故発生箇所の 見える化
 大学生 成人	安心と安全	乱横断防止柵から 紐解く
 高齢者	楽しみながら気づく	自転車ゲーム ・サロン

ライフステージ別（未就学児～高齢者）



警察庁



自転車安全教育ガイドライン

国家公安
委員会

● 交通安全教育指針

幼児の自転車運転
指導項目の記載が無い



未就学児教育が
新しくスタートする

交通安全教育指針



未就学児（幼児）

基本的な交通ルール等の理解

安全に自転車に乗車



小学生（児童）

基本的な交通ルール等の習得

安全な自転車利用

ヘルメット・シートベルト着用
(自転車乗車時の心得)

自転車の基本的事項
乗るにあたっての心得

点検整備
正しい乗り方
通る所
走行上の注意
交差点の通行
歩行者他への注意
自転車の駐車

小



自転車デビューに向けた 準備的な教育が必要

小1

69.1

30.9

(%)

小2

49.4

50.6



小3

42.4

57.6

小4

23.1

76.9

小5

19.5

80.5

小6

0 30 60 90 120

未就学児に応じた
自転車安全教育

山県 <http://www.kochichuo.tokyo.lg.jp>

vta.files

教育 ガイドライン



未就学児

アプローチ



「遊びながら学ぶ」

ランニングバイクで心と体が育つ遊び方ハンドブック



遊びながら学ぶ

ダイジェスト版

幼児期から始める 子ども自転車教室

- # 社会性
- # 自立
- # 助け合い
- # 認知力
- # 判断力



本書は子どもたちの教育手法の一つであるデンマーク発祥の「自転車ゲーム」をベースにプログラムを開発したもので、遊びながら段階的に交通事故に合わないための技能や知識の習得を目指しています。また、ぶつからないように他者を思いやるなど、社会性や自立を促す人間教育の第一歩と捉えて実践してきた運用ノウハウも余すところなく取り入れました。



監修

一般社団法人 市民自転車学校プロジェクト(CCSP)

なるほど解説

「横断における三つのステップ」

ボールが行き来する動きをしっかり観察

する「認知」を行い、動き出すタイミングを

「判断」して、渡る「行動」をします。





- # 社会性
- # 自立
- # 助け合い
- # 認知力
- # 判断力

なるほど解説

「横断における三つのステップ」
ボールが行き来する動きをしっかり観察
する「認知」を行い、動き出すタイミングを
「判断」して、渡る「行動」をします。

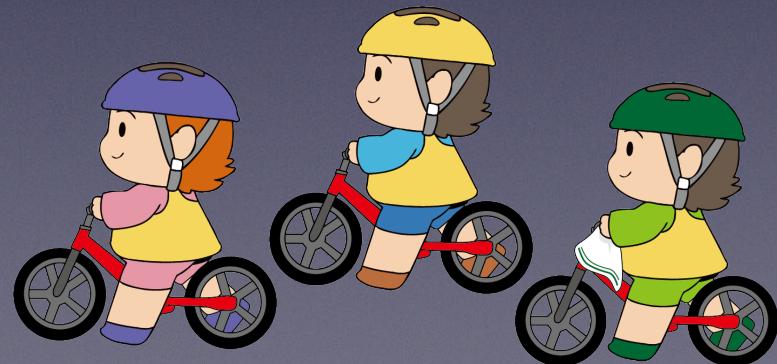
★ 用意するもの ★
・大きなかぎり (バランスボール等)

ただ遊んでいるのではなく 自立に向けたミッションで あることを理解すること!

認知 → 判断 → 行動



アプローチ『未就学児』
自転車ゲームの「遊び」を通して、
自分の置かれている環境を把握し、
変化に対応できる能力を習得する



教育 ガイドライン



中学生 高校生

アプローチ

「他人事から自分事」





見てわかる 自転車 安全教室

主催：京都市
2025年 4月 21日（月）
京都市立音羽中学校

特定非営利活動法人
自転車活用推進研究会

理事 藤本 典昭

中学生・高校生

**どうやって
行動変容を
起こすか？**

中学生・高校生

50分間
一本勝負

① 「他人ごと」から「自分ごと」へと導くプロセス



3



4



5



学校周辺 自転車事故発生場所 見える化



身近な「知っている場所」で事故が
発生している事を「知る」ことで
「他人ごと」が「自分ごと」に変わる



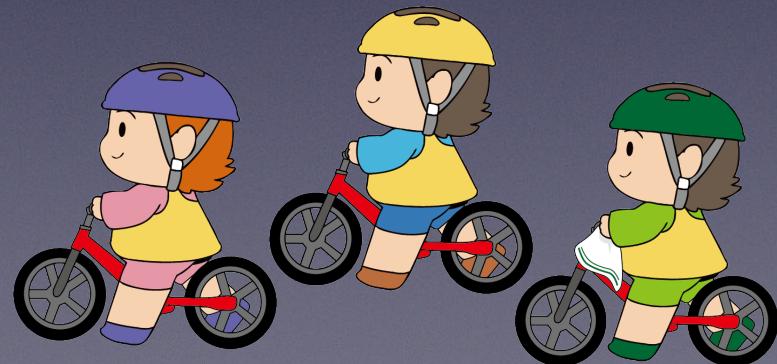
写真を見ながら事故発生箇所の
「共通点」を探します



後日 講習で見た事故発生場所に
来ると安全行動を思い出す
きっかけが継続する

アプローチ『中学生・高校生』

「事故発生箇所の見える化」から
身近な場所での事故を知り、
他人事から自分事、安全行動
への行動変容に導く



教育 ガイドライン



高齢者

アプローチ



「楽しみながら気づく」

自転車ゲームを通して
自分の身体能力を
自分で確認して気づく

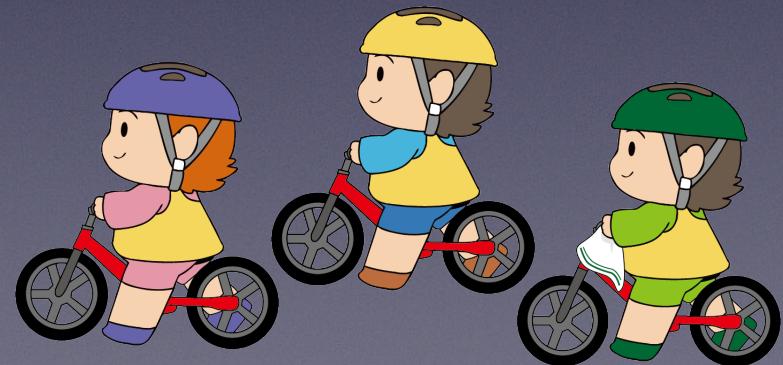




ゲームの後は
お菓子をつまんで
自転車サロン

アプローチ『高齢者』

自転車ゲームを楽しみながら
自らの身体能力に気付いて
事故に備える





障がい者 アプローチ

「楽しく学ぶ」

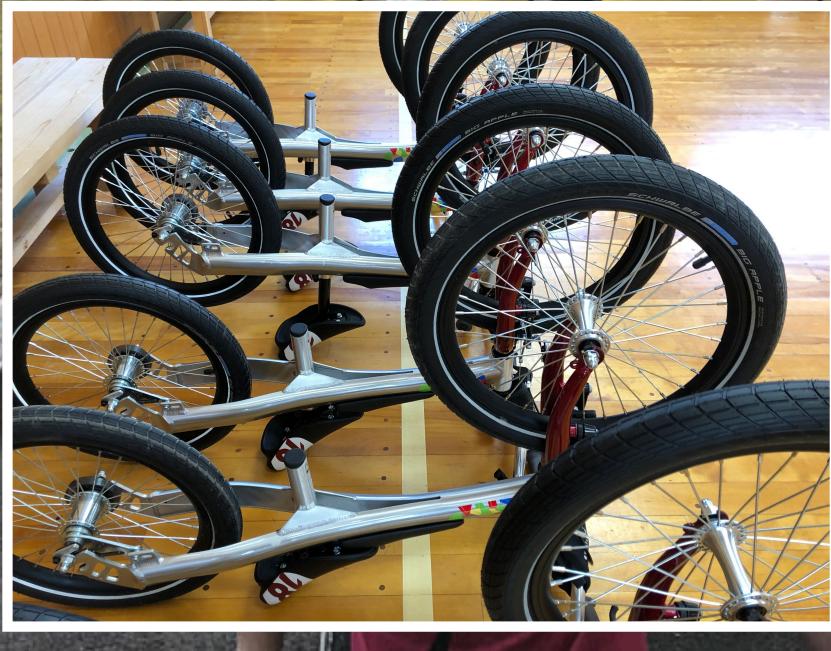


奈良県立奈良西養護学校 (特別支援学校) との取り組み



視角障がい者 知的障がい者 肢体不自由者
発達障がい (ダウン症候群、自閉症スペクトラム症 等)

当時 小5のクラス



自転車ゲーム

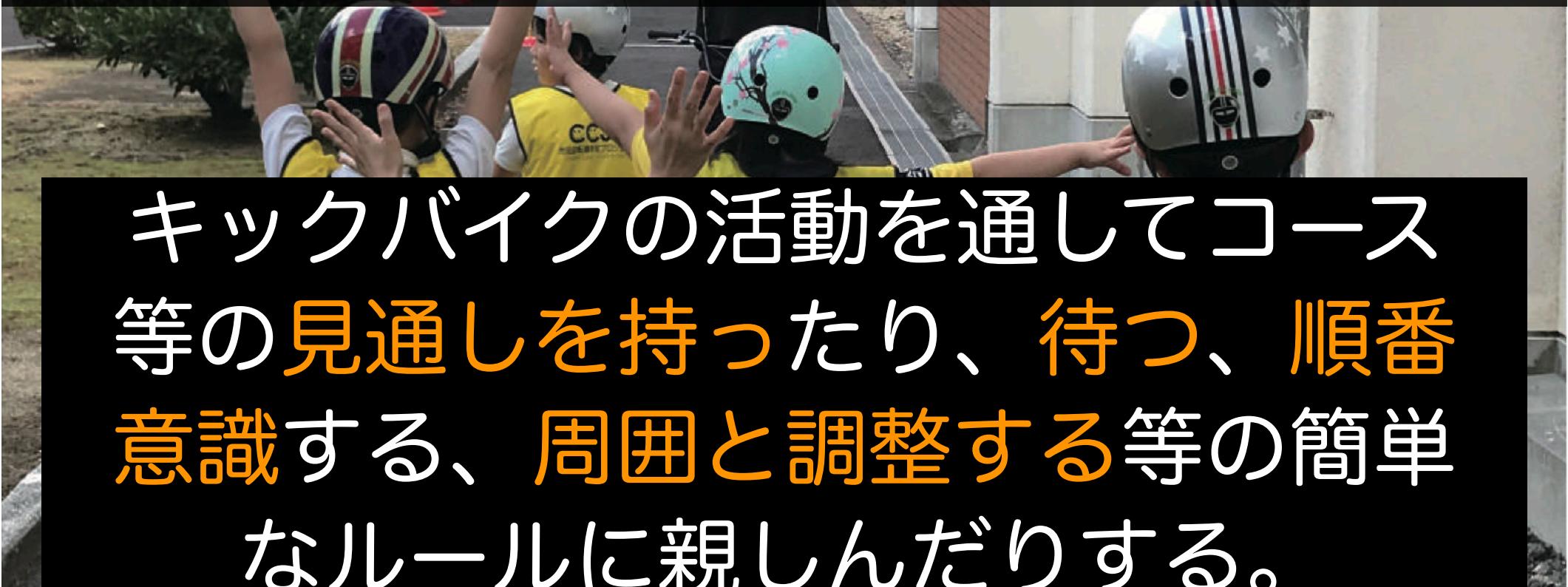
キックバイク

取り組みの狙い①

キックバイクに親しみ、教師や友達
と一緒に楽しく取り組む。



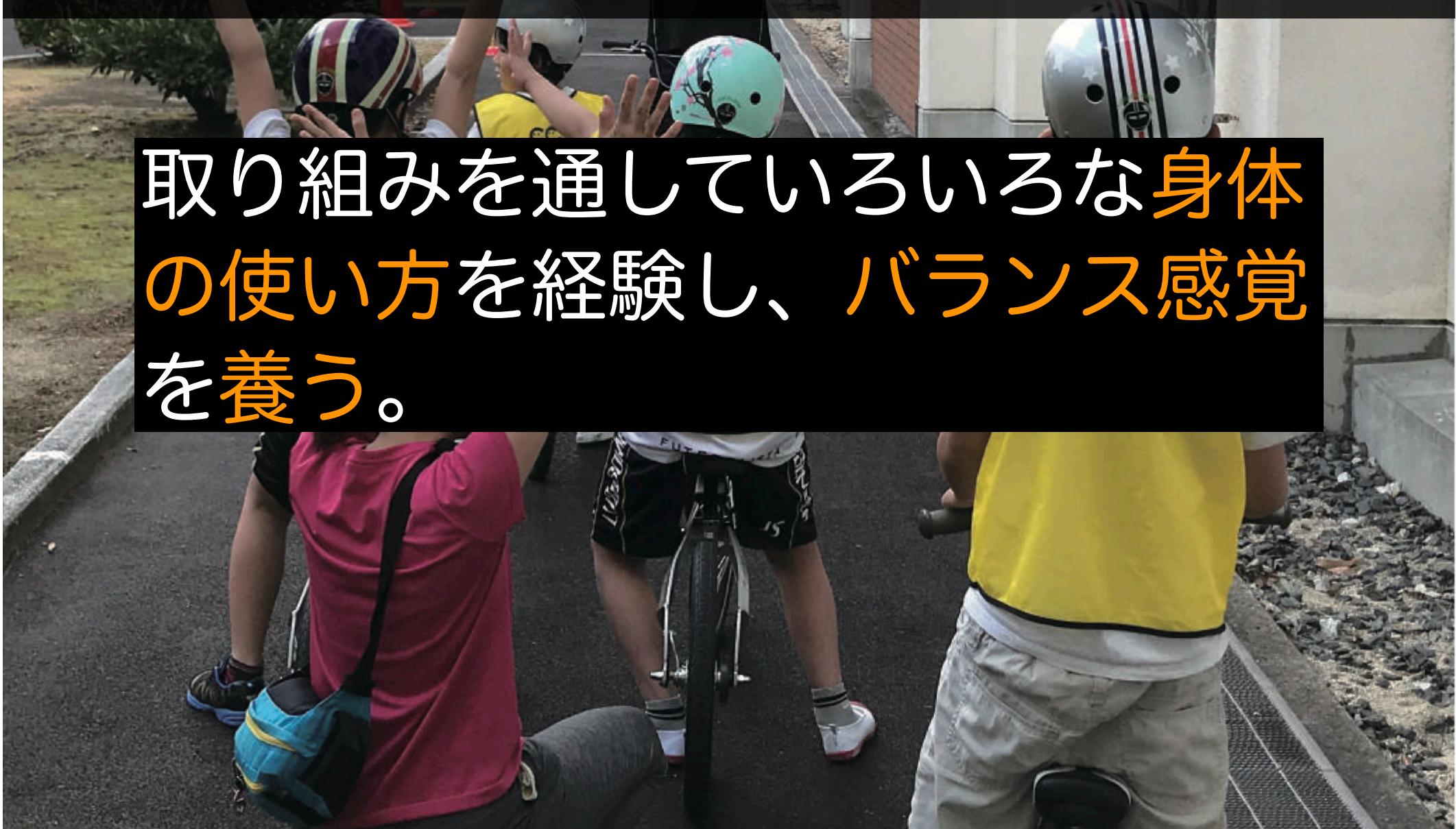
取り組みの狙い②



キックバイクの活動を通してコース等の見通しを持ったり、待つ、順番意識する、周囲と調整する等の簡単なルールに親しんだりする。

取り組みの狙い③

取り組みを通していろいろな身体の使い方を経験し、バランス感覚を養う。



学校からの声

この取り組みを通して

- 社会性（ルール）
- 協調性（順番・列を作る・集団を意識する等）
- 環境の認知（周囲に気を配る）
- 身体（体幹を鍛える、バランス感覚を養う）
- 目と手の協応動作（ハンドル操作等）

これらの自立活動を通して日常生活の様々な部分で
般化された生徒が見られる状況になってきた。

取り組みから8年

現在

体育授業（サークル運動）



線からはみ出ないように気をつけて乗る事で「見る」ことを意識して取り組むことができるようになってきた。

スタート、ゴールという最初と最後を意識し、他の競技でも活かせるようになってきた。

見通しが持ちやすく教員がいなくても児童のみで取り組むことができるようになってきた。

取り組みから 8年



学校の課題

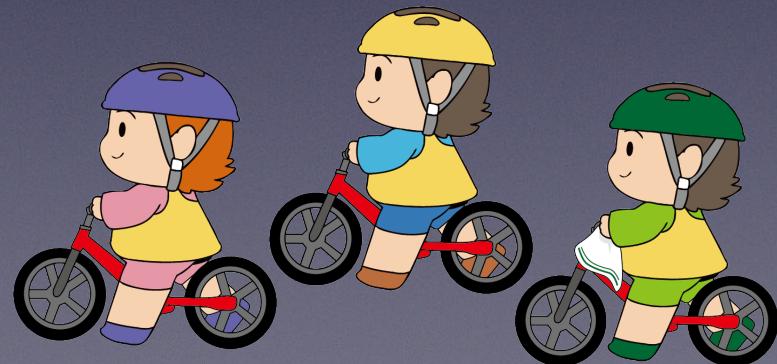
- ① 教員間の移動
- ② 引き継ぎの難しさ
- ③ 時間不足

当時小5生徒（高3）

- ① 親子でツーリング
- ② ビート板25m達成

アプローチ『障がい者』

発達段階に応じた自転車ゲーム
を楽しみながら、無理なく楽し
く学べる体験を提供する





京都市との取り組み インクルーシブ・サイクリング体験会



健常者のみならず障がいをお持ちの方々に
障がいに応じた様々なタイプの自転車で誰もが
楽しさ・学びを共有する試み